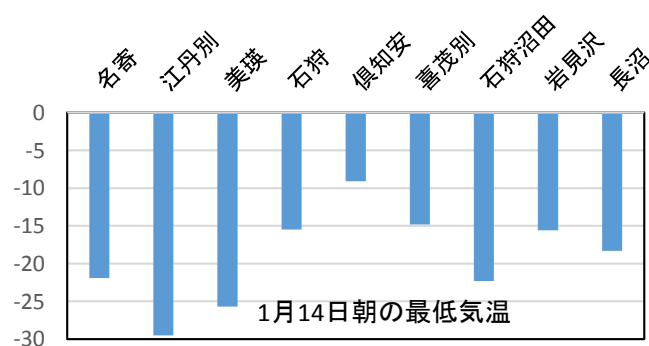
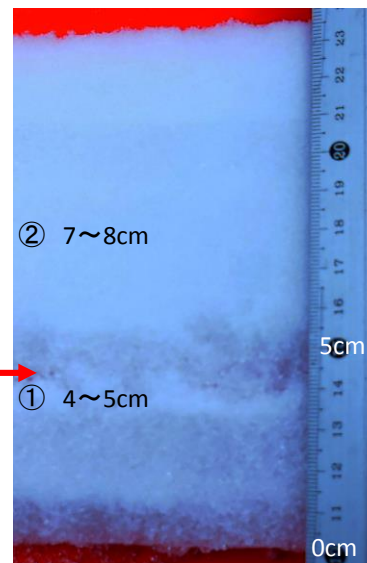


① ざらめとこしも。粒子の大きさの差が大きい。この層が表面にあったとき、融解で一部がざらめに、残りは、こしまりのまま、その後の寒気で両者ともこしまりになった。



② しまりとこしも。積もってから一度も融解していない。低温下で圧密がすすみ、しまりとこしもになった

201/01/14 8:30 晴 無風
気温-9.7°C、全道が高気圧内に。
観測場所内の吹き溜まり地点で弱層テスト、低層内で破壊

弱層テスト
低層の「こしも」層内で:
肩3回で破壊(2度実施)

